



自民党吉田健吾が考える

2025年2月25日
本会議で代表質疑▶

やりたいことに、きっと出会える

KOBE♦KATSU

神戸市では、2026年度に部活動を終了し、生徒が地域の方々とともに活動する「神戸の地域クラブ活動」＝「KOBE♦KATSU（コベカツ）」を開始します。
このコベカツについて、神戸市民の親子からの疑問を吉田へのインタビュー形式でわかりやすくお伝えします。



Q1 コベカツ参加には月額3,000～4,000円程度の費用がかかるとされていますが、経済的に厳しい家庭の子どもが活動の機会を失う可能性が心配です。具体的な支援策はありますか？

吉田 残念ながら、現在は市としても、国からの支援も示されていません。いくら低廉な会費設定を団体にもお願いしても、保険加入費用は最低限かかります。経験の格差を生じさせないためコベカツクーポンの発行や、交通費の無償化などを提案しているところです。

Q3 学校生活での重要な話題だった「部活トーク」や休日の過ごし方が変わること、友達や先生との関係に影響が出ないか心配ですが、どうお考えですか？

吉田 コベカツに移行されても、今までもあったような種目については、自分の学校か隣の学校で活動することになり、1校だけでなく複数校の生徒が参加するということになります。今までの「部活トーク」は「コベカツトーク」になってくれると思います。しかし、1校に同種目が複数あれば、校内でライバルチーム同士の関係になったりすることがあるので、少しトーク内容が変わることもあると思います。また、他校との生徒の繋がりが強くなることで、トラブルがあっても校内だけでは解決せず、学校をまたがった対応が必要になることも考えられます。先生の中には、部活も込みで生徒を成長させようという方々もいますので、授業プラスアルファのアルファをどう作っていくか、先生方の腕の見せ所になります。（余談ですが、私自身、今でも中学校の野球部顧問の先生からよくLINEがきますw 教室の外で過ごす時間が長かった部活の先生という存在は重要だと今でも思っていますが、時代背景から移行はしなければなりません。）

Q5 コベカツを通じて育まれる「神戸市の子ども像」はどういったものでしょうか？公教育の大切な一部分が部活動です。それが大きく変化することで影響も各所にでるのではと懸念しています。コベカツを通じて、どう子どもが成長することを期待されているのでしょうか？

吉田 HPには、コベカツをきっかけに学習・スポーツ・文化活動など、放課後や休日の過ごし方を自分で主体的に考え、判断してもらいたいと記載されています。教育長は答弁で、自立性を高め、そのことでこれからの激動の時代を生き抜く資質や能力を高めることにもつなげていきたいと述べています。この変化で伸びる子は、どんどん伸びるだろうと思います。場合によっては、

Q2 大会やコンクール参加の機会は今まで通り確保されるのでしょうか？また、高校進学時の調査書・内申点が、不利になる懸念はないのでしょうか？

吉田 兵庫県中学校体育連盟や吹奏楽連盟などに申請すればコベカツクラブも大会に参加できます。ただ、市の大会は部活動顧問の先生が運営しているケースが多いと聞くので、今後の大会運営については課題のひとつであると思います。いわゆる内申点についても良く聞かれますが、公立高校入試では内申点と当日のテスト点数の合計で合否が決まります。その内申点は9教科の通知表5段階評価から機械的に算出されるだけで、ここに部活動実績等を含めた加点や減点は存在しません。一方、私立高校入試では、中には調査書の内容が加味されるケースもあるそうです。しかし、部活動と同様にコベカツへの参加についても、調査書へ記録することはできると聞いていますので、今と同程度の大会が開催されれば、スポーツ推薦などを目指すお子さまにも影響はほとんどないかと思えます。

Q4 コベカツに参加しない、「どこにも所属しない」選択をした子どもへのケアはどうなっていますか？放課後の時間の過ごし方など、フォローはありますか？

吉田 昔のように全員部活に入る時代ではなくなったものの、それでも8割程度の入部率です。自由に選択できるという理念ですが、残念ながら、どこにも所属しないことも自由に含まれてしまいます。今後、移行に際して、選択に悩む生徒には教員がフォローをしていくので、そこに期待をしています。また、コベカツの活動時間が夜だった場合、夕方にぼっかり時間があきます。各学校が夕方の1時間程度をどう活用するのも重要です。既に教育委員会から各学校へ知恵を絞るように号令がかかっています。例えば、補習の実施や宿題をする場の提供、生徒との面談などが考えられます。こちらからは、ALTとの英会話クラスや、理科の実験クラスなど、特色ある学びに繋がる取り組みも要望しています。



コベカツの掛け持ちも可能になりますし、選択の幅は格段に広がります。その一方で、全員が全員、自分で最適な選択をして、自分の力を伸ばすことができると思えません。時には励まししながら、時には背中を押しながらサポートしていくことも必要ではないかと考えます。自分で選択をする「練習中」だという認識のもとで、学校や保護者、コベカツクラブがサポートをしていくことが肝要だと思います。

ずっといっしょ。まっすぐ未来へ。

自由民主党神戸市議員団
神戸市議員 灘区

吉田健吾



神戸市政報告

灘区版

2025.03 vol.23

発行日 ● 令和7年3月21日
発行元 ● 自由民主党神戸市議員団・無所属の会
〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5-1
TEL078-322-5846 <http://www.jimin-kobe.com>

2025年3月7日
予算特別委員会で質問

2月18日から令和7年度当初予算案を審議する2月議会が3月28日までの予定で開かれております。
予算編成には、「人口減少時代における持続可能なまちづくり」というサブタイトルがつけられています。私自身も40年後には100万人を切るかもしれない、大幅な人口減少を見越した行財政改革で、将来に負担を残さないという理念で活動

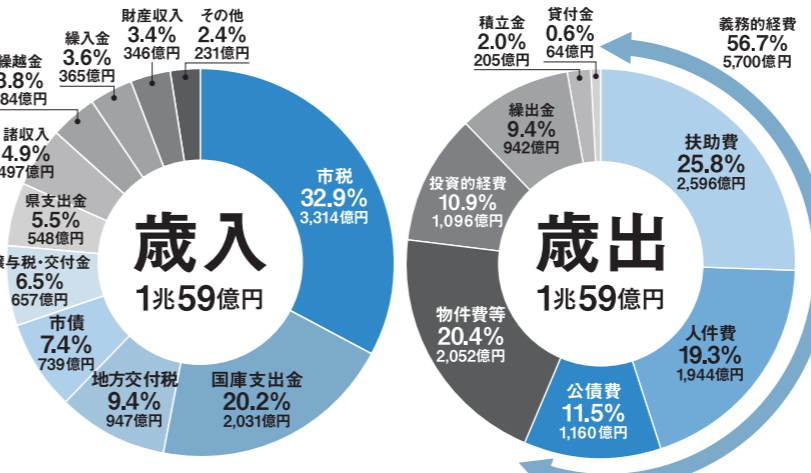
をしております。
人口減少時代において、行財政改革の一方で、交流人口を増加させ経済を活性化させる必要があります。開港以来、国際都市と言われながら、震災後にその色は薄くなってしまっていると危惧をしております。神戸空港の国際化を機に、再び国際都市としても輝くように議会でも議論をしていきます。

令和7年度神戸市の予算

予算総額:2兆331億円(前年度比:+1,061億円)

- 一般会計** 1兆59億円(前年度比:+1,002億円)
福祉、教育、道路・公園の整備など、市の基本的な事業を行う会計です。
- 特別会計** 7,119億円(前年度比:+408億円)
国民健康保険や介護保険、市営住宅など、特定の収入で行う事業の会計です。
- 企業会計** 3,152億円(前年度比:-349億円)
バスや地下鉄、上下水道など、主に利用者のみなさんが支払う料金収入等で行う事業の会計です。

一般会計予算の概要



海と山が育むグローバル貢献都市の実現

市民1人あたりの行政コスト

一般会計の支出を市民一人あたりにすると

67万円になります

福祉の充実に 約26.4万円	教育・文化の振興に 約10.6万円	環境・衛生の向上に 約5.0万円
住宅・まちづくりに 約5.6万円	産業の振興に 約0.8万円	道路・公園等の整備に 約3.6万円
消防・救急に 約1.6万円	区役所などの運営に 約6.0万円	市債の返済に 約7.8万円

※令和6年12月31日時点の住民基本台帳に基づく人口1,492,604人で算出しています。
※本予算案は議会での議決を経て成立した上で、実施されます。

令和6年度議会活動の進捗報告

令和6年 第2回定例会市会
12.5 2024 本会議・一般質問

昨年12月の本会議において、「神戸空港国際化を踏まえた観光振興」「障がい者雇用」「防災対策」などについて質疑をしました。

- 2025.2.25 令和7年 第1回 本会議・代表質疑
- 2025.2.27 令和7年度 予算特別委員会 建設局
- 2025.3.3 令和7年度 予算特別委員会 健康局
- 2025.3.7 令和7年度 予算特別委員会 危機管理室・消防局

についてはナカ面をご覧ください。▶

2.25
2025

令和7年 第1回
本会議・代表質疑



1. 人口減少時代における持続可能な行政サービスについて

2025年
2月25日
本会議で
代表質疑▶

①公共交通ネットワークの再構築

人口減少、少子・超高齢社会が進展する中、子どもからお年寄りまで誰もが快適に過ごせるよう、持続可能な地域公共交通ネットワークが重要です。人口分布に基づいて、将来あるべき姿を念頭において、公共交通網のリ・デザインをするべき。



②スマート自治体の実現

本市でも40年後には人口が100万人を切る事が予想される。人口減少に伴う税収減少、人手不足で組織のスリム化は避けられない。DXの活用などで市民サービス向上や市民参画推進を大切にしながら進めるべき。



2. 児童虐待防止と対策について

西区で発生した児童虐待死事案を反省し、二度と起こさないという決意を持ち、虐待対応の状況を把握して、定期的な検証から改善を続ける仕組みが必要。また、第三者評価も受け虐待対応の質を担保すべき。



要条例改正

3. 部活動の地域移行について

やりたい活動ができるようにエリアに偏りなく団体を確保の上、審査は丁寧に。また、会費による機会の格差をクーポン等で解消させ、教員の参画を遮らず、子どもも保護者も地域も安心して移行できるように。



議論中
裏表紙のQ&Aも
ご覧ください!

自由民主党
神戸市議員団
吉田健吾
灘区選出

令和7年度 予算特別委員会
健康局

3.3
2025



1. 小学校におけるフッ化物洗口について

これまでモデル事業だったフッ化物洗口が事業化される。5年生、6年生へのフッ化物洗口液の配布と、重点校5校での外部人材を活用した集団洗口を組み合わせた神戸方式の今後の展望は?



実現

2. 市民病院の経営改善について

市民病院の経営が非常に厳しい。主な理由として、コロナ前までの患者が戻っていないと説明を聞いている。果たして患者は戻るのか。単純に民間病院と患者の取り合いをするべきではない。抜本的な経営改善に踏み切るべき。



これから

4. 銭湯支援について

支援策の一つとして、令和5年2月から値上げされた40円を市が補填しているが、今年度末までの措置となっている。令和7年度は、大規模設備改修助成のメニューが新設される予定だが、狙いと効果は?



これから

3. 墓地について

① 申込者の資格について

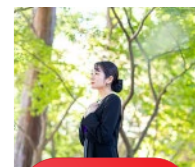
神戸に住む方が亡くなった場合、遺族が市外在住なら市立墓園は申し込みできない。墓不足から墓余りの時代になっている中で、本人が市民で、申込者が市外ということで対象外になるのは、いかがなものか?



改善へ

② 合葬墓・樹林葬について

鶴越墓園の合葬墓は、あと5年で満杯になる。多様なお墓ニーズへ対応した「樹林葬墓地」は50年後、山林に戻ることになっている。合葬墓は、整備すれば永遠と行政の管理が必要である。持続可能な行政サービスになるように。



問題提起

③ ペットの移動火葬について

近年、全国的にペットの移動火葬のニーズが高まっている。神戸市内でも公園内や路上で、移動火葬車が火葬している例もある。近隣トラブルにならないよう、条例や要綱を設けて、適切なお見送りができるように。



改善へ

2.27
2025

令和7年度 予算特別委員会
建設局



1. 今後のインフラ整備について

今後20年間で、建設後50年以上経過する施設の割合は加速度的に増える。人口減少や超高齢社会の中で、建設局においては、今後の道路や公園や下水等の維持管理が課題になる。コスト意識や、未来の負担を減らす技術を。

2. 公園整備・特色ある公園について

「KOBEパークリノベーション」においては、「地域の状況に応じた公園の配置」や「市民に愛される公園の機能」との施策が記載されている。小さな公園における未就学児の運動神経を伸ばすことに資するような公園を整備できないか?



実施へ

3. 王子動物園について

サバンナゾーンが工事着手になるが、国鉄の鷹取工場での1号機として建造されたSLについては、どう対応するのか? 園内に日よけやテントなどを整備できないのか?



SLは
故郷へ

4. 灘浜住吉川線・湾岸線西伸部について

灘浜住吉川線渋滞により、周辺の住宅街が抜け道になり、住民の方々の安全面を危惧している。摩耶ランプ南交差点付近で工夫できないか?



少し
改善

5. 自転車で楽しむ六甲山について

マウンテンバイクコースの整備やロードバイクの走行環境の向上に向けて、具体的にどのように取り組みを進めているのか?



NEW

2025年2月27日
予算特別委員会で建設局へ質問▶

令和7年度 予算特別委員会
危機管理室・消防局



3.7
2025

1. 被災経験の継承と震災対策について

本市において、阪神淡路大震災を知らない世代が半数を超えている。震災で得た知見や経験、教訓の継承は重要である。これまでの震災対策の評価と今後の展開、また、被災経験をどのように継承していくのか?

2. 灘消防署の既存庁舎の解体について

灘消防署の新庁舎建設について、来年度には建設工事が始まる。機能が充実して、子どもの見学もしやすい署の運用開始を心待ちにしている。令和9年度に供用開始後、旧庁舎の解体工事中の運用は大丈夫か?



万全の
準備を

3. 地域防災への支援について

災害初動対応で地域住民が避難所開設できるよう、マニュアルの簡素化や開設運営手順シートの作成、避難所開設キットの設置がされる。本事業の狙いと具体的な実施内容、今後の進め方はどうなるか?



実現

4. 防災分野における女性視点の導入について

災害時に女性へ配慮した避難所運営を行うためには、女性の視点は不可欠。我が会派から、女性目線での防災対応について質疑してきた。防災会議に設ける「女性部会」で何を検討し、どう避難所運営等に反映させるのか?



5. 災害時物資の備蓄について

間仕切りテントや簡易ベッドなども含めて、備蓄計画を策定し、備蓄物資の計画的な確保と適切な維持管理を進める必要がありますが、備蓄物資の適切な維持管理に向けた今後の対応は?



6. 防災DXの推進について

阪神・淡路大震災から30年が経過し、防災関連のテクノロジーが進歩していく中、一層、防災DXを推進していくべき。

